

令和6年度

佐賀市部活動地域展開（地域クラブ活動型モデル）実証事業

成果報告書

NPO法人 スポーツフォアオール
（佐賀大学ベースボールクラブ）

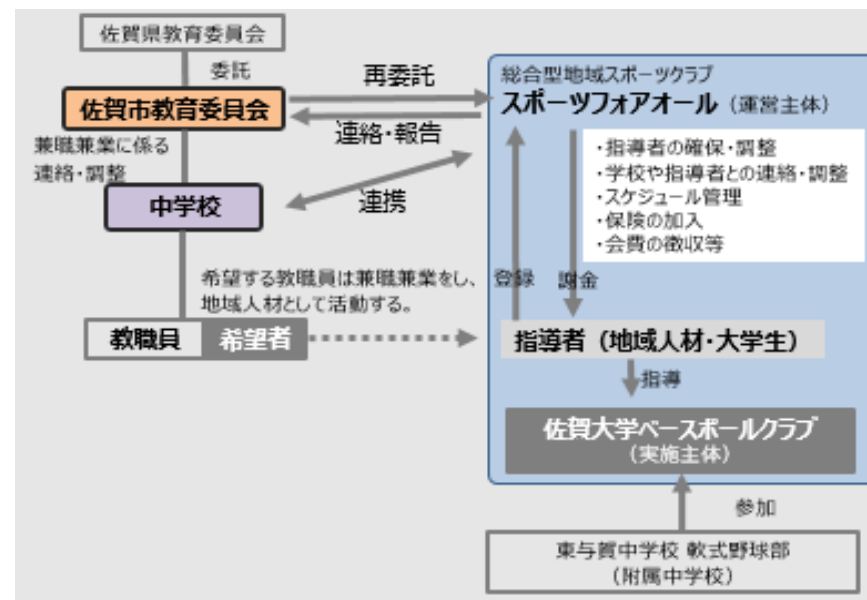
1. クラブの基本情報

主な取組例

● 佐賀大学ベースボールクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	軟式野球
運営団体名	特定非営利活動法人 スポーツフォアオール
期間と日数	7月1日～1月29日 週3～4回程度
指導者の主な属性	大学教授、兼職兼業教員、大学生 元中学校外部指導者、小学校教員
活動場所	佐賀大学グラウンド
主な移動手段	自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	48,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

● 運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 運営責任者 1名
役割：指導者の確保・調整、活動場所の確保・調整、財務管理、事務手続き 等
- 指導者（主） 1名
役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う
- 指導者（副） 4名（うち1名は運営責任者）
役割：活動において、指導者（主）の補助として、指導を行う

2.実証内容と成果①

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組

取組内容

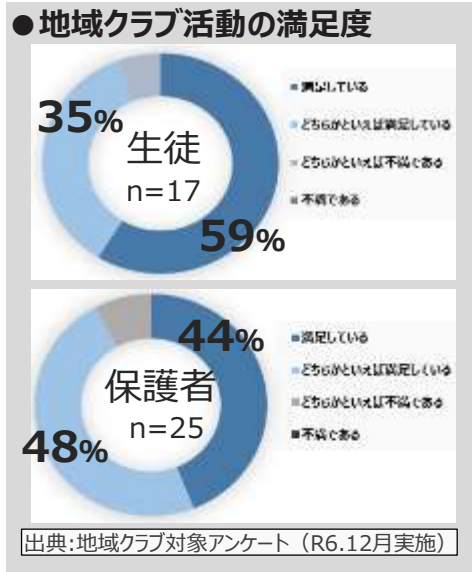
●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- 指導者の確保 **指導者の属性や配置の工夫**
 - ・佐賀市外に異動した教員が、所属町教委に兼職兼業申請し、地域クラブ指導者（主）として指導従事
 - ・運営団体代表者が属する佐賀大学の学生、OBが指導従事

取組の成果

- 生徒・保護者ともに地域クラブ活動への移行に対して、肯定的に受け止めている割合が高い。
- 指導者に対する声として以下の声があがった。
 - ・個人・チーム状況に応じた技術指導をもらえる
 - ・技術以外（礼儀作法等）を指導してもらえる
 - ・主体性を尊重してもらえる



●取組項目名 ク：その他の取組／平日の移行

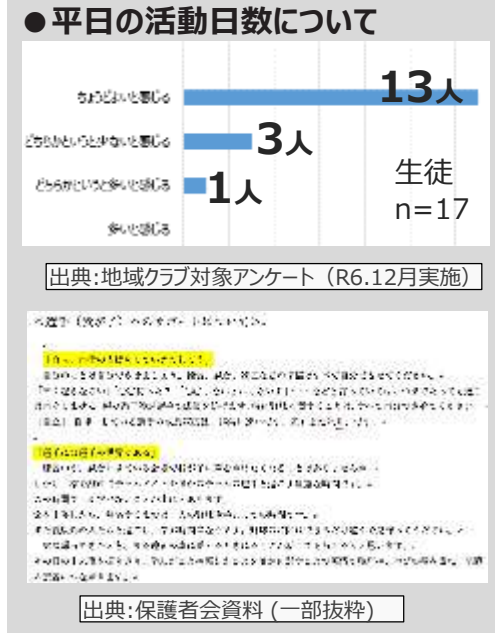
取組事項（2）

- 改革推進期間後を見据えた取組を推進する観点から、平日も含めた地域スポーツクラブ活動への移行に向けた取組等を実施。

取組の成果（2）

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

- 平日2日、休日1日（大会等があれば2日）で実施。平日の活動日数に対して、肯定的に受け止めている割合が多い。
- 平日の活動時間を17時（17時30分）から19時（19時30分）としていることで、学校が終わって余裕をもって移動することができた。
- 連絡アプリを活用し、活動内容等の共有を行った。



今後の課題と対応方針

- 従来の学校部活が担ってきた大会等の運営、学校教育への補完的活動、保護者対応などすべてに対応することは受け入れ側にも過剰な負担となり、持続可能ではない。従来の部活動観からモデルチェンジする関係者の意識転換が必要となる。
- 平日の活動も考えると、指導者確保の観点から従来の部活動と同時間帯で開始は困難。→活動時間帯の検討
- 地域移行に伴うユニフォーム新調の金銭的負担の声は保護者からもあがる。→地域クラブの大会参加規定緩和やニーズに合わせた大会設定の必要性

2.実証内容と成果②

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項（3）

○佐賀市では、地域展開への前段階として、現状の部活動の質と量の適正化を図る「佐賀モデル」に取組み、より**主体的に、適切な時間**で活動する形への転換を図っている。

○地域展開後の地域クラブにおいても、「主体性」を育むことを第一義とし、本クラブから佐賀県内の中学校軟式野球部に声をかけ、**主体性**を持って野球に取り組む姿勢を身につけてもらうことを目的とした新たな事業に取組んだ。

○**普段の練習や試合では体験できない規定やルールを適用**し、それぞれの選手がチーム内で主体的な活動をするように促した。

活動の詳細

参加人数	190 人	指導者数	18 人
属性	佐賀市軟式野球育成リーグ		
具体的な内容	<p>選手たちが野球に主体的に取り組み、自ら考えてプレーすることで野球本来の楽しさを体験してもらうことを目的とした大会である。以下に示す特別ルールに準ずることにより、選手の主体性を引き出され、選手自ら考えてそれぞれがチームを導いて行こうとする態度を育てることができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>《特別ルール》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監督はサインや指示を一切出さない ・ポジション等は選手同士で決める ・全員が出場する ・選手は複数のポジションを守る ・一回で3点入ったらチェンジとする ・2,5回はノーアウト1,2塁からスタートする </div>		
子供の声	<ul style="list-style-type: none"> ● いろいろなチームと戦えてよかった ● すべての試合に出ることができて楽しかった ● 自分たちで作戦を考えることはおもしろかった ● 野球のおもしろさがわかった ● 普段しないポジションを守って緊張した ● ピッチャーが経験できてよかった 		
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 選手がいまいきとしていた ● 自分たちで率先してやっていた ● 普段よりよく声をだしていたようである ● またぜひ開催してほしい 		



2.実証内容と成果③

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

○地域クラブの運営にあたっては、持続可能な仕組みづくりを行なっていく必要があることから、実証事業における収支構造の可視化を行い、適切な受益者負担額の設定や、公的資金のバランスについて検証を行なった。

地域クラブに係る経費（R6.7月～1月）

■イニシャルコストの分析

- ・野球用具ヘルメット（87千円）
- ・ユニフォーム（145千円）

■ランニングコストの分析

- ・指導者謝金（321千円）7カ月分
- ・消耗品費（71千円）軟式野球ボール

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

・指導者謝金	2,880千円	(1.6千円×360時間×5人)
・消耗品費	500千円	(ボール等)
・備品費	250千円	(バット等)
・保険	46千円	(45人×800円+5人×1850円)
・大会参加費等	100千円	
・予備費	70千円	

計 3,846千円

(注)以下の条件で試算

※部員45人、指導者5人（謝金単価1,600円）

※週8時間×45週

※事務局人件費は含んでいない

収支バランス

費用 3,846千円



収入

1,686千円を
補う必要あり

会費

56% 2,160千円
(4千円×45人×12ヶ月)

2.実証内容と成果④

総括・成果の評価

● 総括・成果の評価

01 地域クラブ運営体制の整備

- 総合型地域スポーツクラブが運営主体及び実施主体となり生徒の活動機会の確保、生徒のニーズに沿った指導につとめた結果、生徒・保護者とも満足度が高かった。

03 理解促進に向けた効果的な広報

- 地域クラブとしてのチーム方針を共有するためのちらしや保護者の関わり方等についてもまとめた資料を保護者会時に配布し、共有を図った。
- 保護者も生徒も勝敗以外の新しい価値にシフトしている。

Q【保護者】どんな大会があったら参加したいか？（複数回答）

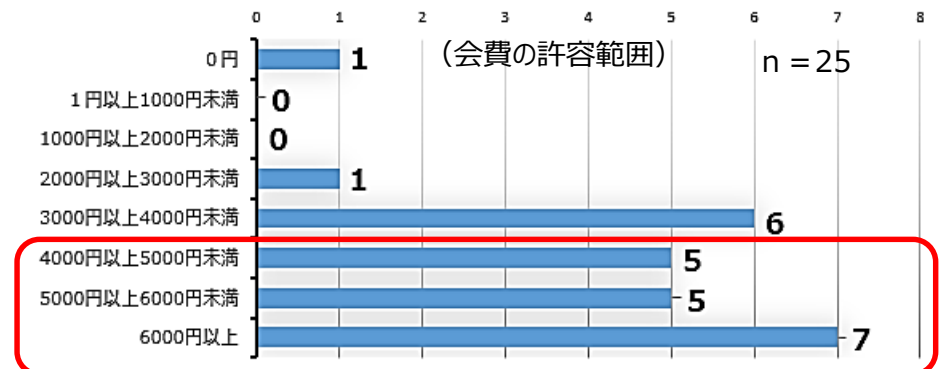


02 指導者の質と量の確保

- スポーツ科学専門の大学教授に加え、市外転出した教員（公認指導者）が兼職兼業で指導に入り、「質」の向上に。
- 教授のゼミに所属している体育学生や卒業後、小学校で勤務しているOBもサポートに入り、「量」の確保に。

04 財源の確保

- 合同チームから1つの地域クラブに移行することに伴うユニフォーム等の新規購入（貸与）に国庫を活用し、保護者負担軽減。
- 受益者負担への保護者理解促進。（4000円以上が約7割）

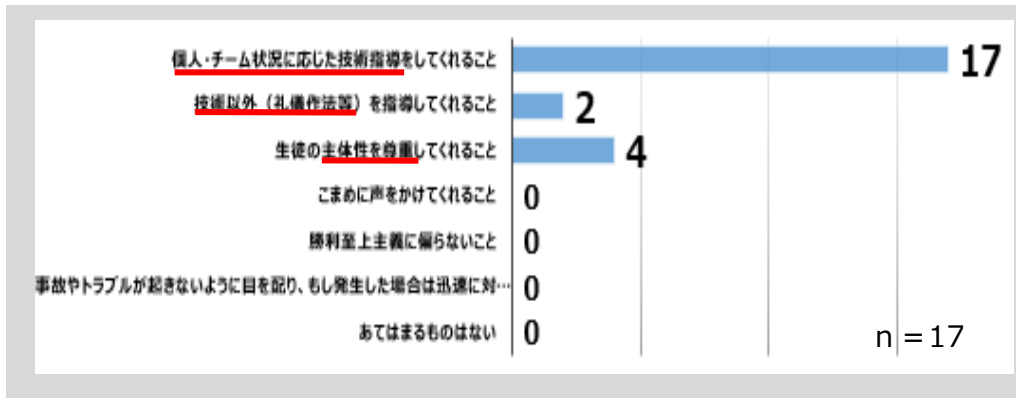


2.実証内容と成果⑤

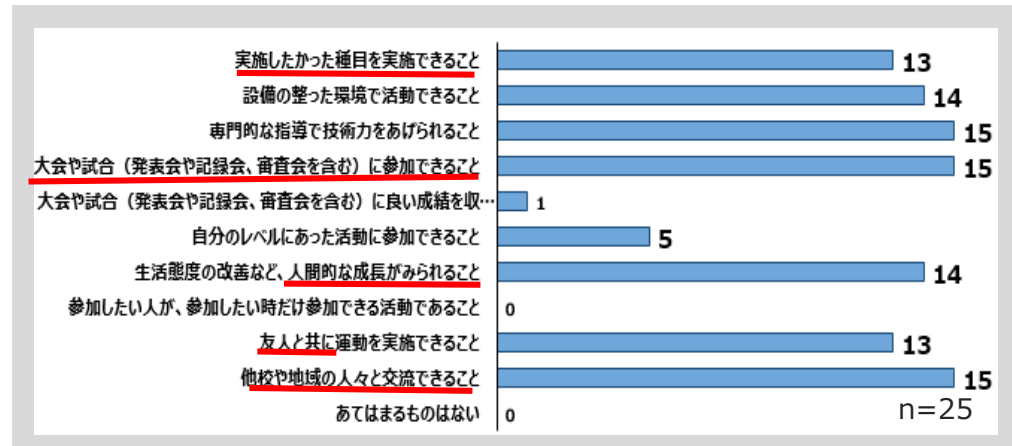
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

Q.【生徒】現在の地域クラブの指導者で満足していることは何ですか？（複数回答）

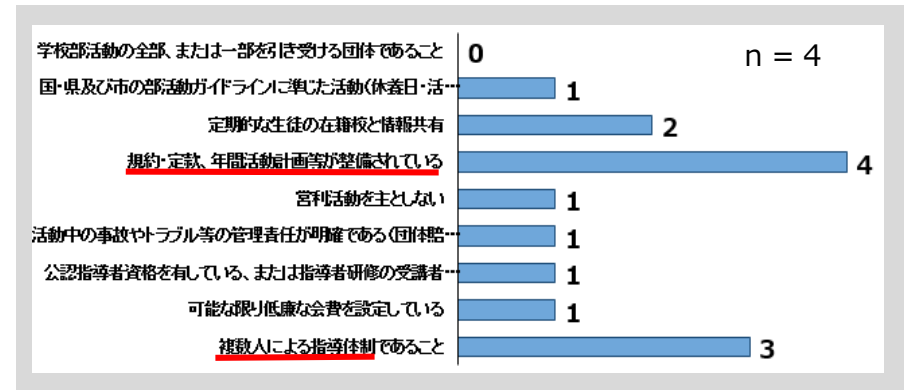


Q.【保護者】学校部活動と比較して、お子様が参加する地域クラブ活動について、満足していることをすべて回答してください。（複数回答）

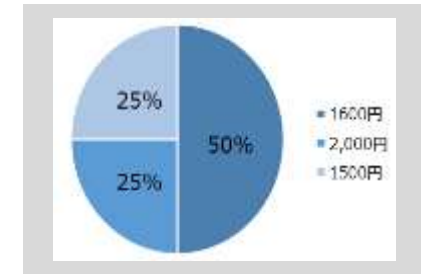


●●市●●●●●アンケート（実施期間：令和6年●月～●月）の結果抜粋

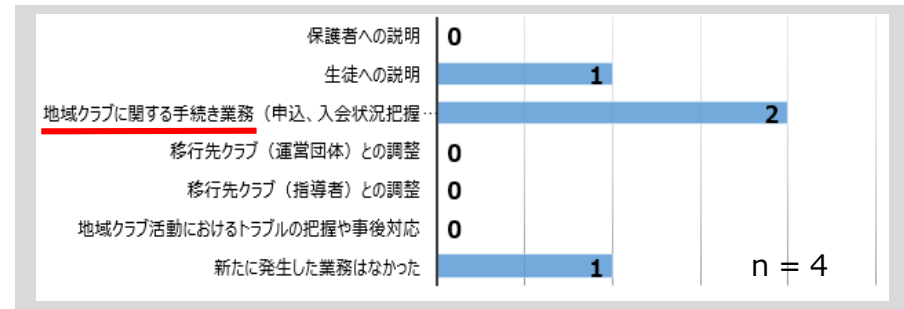
Q【指導者】民間クラブとの差異を明確にするため、地域クラブ活動の要件として必要だと考える項目を教えてください。



Q.【指導者】指導者謝金として妥当だと感じる時給は？ n = 4



Q.【顧問】地域クラブ活動への移行に伴って、新たに発生した業務は？（複数回答）



2.実証内容と成果⑦

参考資料（活動写真）



【理学療法士によるトレーニング指導】



【中学校部活動との合同練習会】



【地域クラブとして大会に参加】



【選手主体のミーティング】

2.実証内容と成果⑧

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

協議会設置、
検討開始

令和5年

・実態把握
・実証実験実施
・地域展開会議設置

地域展開の方向性決定

- ①学校部活動の適正化
- ②地域型クラブの設立支援
- ③民間クラブへの参加円滑化

令和6年

実証事業に係る説明
(生徒、保護者・関係者)

学校現場との調整

地域クラブ
活動の開始

令和7年～

地域クラブ
活動の拡大

ステークホルダー

教育委員会、市長部局、会議委員（学識経験者・学校・PTA・スポーツ協会・スポーツ少年団・民間クラブ・吹奏楽連盟）

※代表理事が学識経験者の立場で委員として参画

経過

地域展開会議の意見や中学生アンケートの結果をもとに今後の地域展開の3つの方向性を決定

実施内容

- ・学校、関係団体、実証事業対象部活動へのヒアリング、説明
- ・教職員アンケート、中学生アンケート
- ・市直営による実証事業の実施

地域スポーツクラブ活動の実施にあたって生じた課題（令和6年度）

- 学校部活動と地域クラブ活動の違い、地域クラブと民間クラブの違いについて、保護者・関係者の理解に時間を要する。
- 単一部活がそのまま移行する形ではなく、合同部活の形から新規クラブ設立になる場合、保護者会組織の引継等の事務手続きが煩雑になる。生徒は別途統一ユニフォームの購入等の経費負担が発生する。
- 中体連大会では、地域クラブが市予選に参加することができない（地域クラブのみで予選会をし、県中体連に1チームのみ出場枠あり）